

(3) 代かき後未入水田植え 極浅水代かき直後田植え法

ア．適地

土壌条件：特になし、 水持ち：普通～良

イ．作業方法

- ・ほ場準備（秋耕・春耕）

秋耕や畦塗り、春耕などでほ場の碎土性と均平度を高めておくことが必要である。

- ・面積の決定

極浅水代かきの直後に田植えを行う場合は、代かきと田植えを合わせて1日で終われる面積が1日の上限となる。

また、極浅水代かき作業だけが終了し、田植えが残った場合でもほ場にごく浅く入水を行っておけば翌日には田植えが可能である。



写真 -16 0-列作業機による碎土作業

- ・作業日程・・・極浅水代かきでは代かきに入る回数を1回とし、その直後に田植えする。

田植え前日数	7日	6日	5日	4日	3日	2日	1日	0日
慣行田植え	尻水戸作成	入水		荒代かき		植え代かき		田植え
極浅水代かき 直後田植え		尻水戸作成	入水				代かき	田植え

ウ．留意点

田植え7～3日前からゆっくりと入水！

尻水戸をきっちりとふさぎ、入水を始める。入水の量は少なくし、1～2日かけてほ場の6～7割の土が見える程度まで入水する。その後はこの状態を維持する。

尻水戸から水が漏れていないか、もう一度確認する。



写真 - 17 浅水の程度

代かきの方法

水深はほ場の7～8割の土が見える程度とする。これ以上の水深では深水となり、すぐあとに田植えができないので注意する。

詳しくは浅水代かきのページを参照のこと。
代かき時の水量と水田ハローの作業速度がゆっくりと歩く速度で行うことが重要で、代かき（植代）後のかたさが軟らかすぎると浮き苗の発生が増える。

エ．特別に必要な作業機

- ・トラクタおよびロータリ

トラクタは水田ハローが取り付け可能であれば特に制限はない。極浅水で代かきを1回で仕上げるには水田ハローを用いて行う。それまでの耕起にはロータリが必要である。

オ．慣行移植作業との比較

すぐあとに田植えを行う場合

代かき後、田んぼはようかん状になっているので、そのまま田植機でほ場に入り、通常の方法と同じようにして田植えを行う。

土が軟らかすぎて、泥水が浮き上がる状態なら、田植機のフロートの押さえ強度を弱めて行う。

翌日に田植えをする場合。

代かき後、天気が良く土壌表面が乾くことが予想される場合は、翌日に落水しなくてもいい程度にごく浅く入水を行う。

この方法では土が軟らかいうちに田植えするので、田植機の旋回時に起こる土の盛り上がりは発生しないため、枕地の整地作業が楽になる点がメリットである。

欠株率が5%以内では、収量に影響ない。

なお、田植え後に浮き苗の発生が多くなるのが心配される場合は、ほ場の状態をみながらごく少量の入水量にとどめ、数日管理後、十分入水する。



写真 - 18

浅水代かき作業